

中学生の部 入選

飛騨市立神岡中学校 三年 大西 永真

僕は祖父のきそいで剣道を始めました。

たまに祖父は、部活やスポーツ少年団に来てやさしく、特に厳しく教えてくれます。足の向き、すぶり、そして技のよい打ち方を教えてくれます。祖父の剣道は、大会などで勝つ剣道ではなく、段級審査などで段を取る剣道です。自分はまだ小さい頃は剣道についてよくわからなくてたまに人を傷つけてしまう剣道でした。しかし中学一～二年生の時に祖父がいました。

「力を抜いて大きい声でパーンと打ちなさい。」

祖父の言葉を心に止めて剣道をしていると、勝つ回数も増え、人を傷つけないですむので学校以外の剣道仲間が増えたり、先生にほめられたりしました。あの時祖父があんなことを言ってくれなかったら、僕は変わることができなかったと思います。

コロナが原因で剣道がやるのが難しくなっていましたでしたが、祖父はやれる程度のことをしようと段級審査の練習をしたり、いっしょにすぶりをしたりしました。

剣道だけではありません。最近では夜の七時から九時まで、中学一～二年の数学、英語、国語などを勉強しています。一～二年生の勉強でわからなかったりした所を復習できるので、とても大切な時間です。そして終わった後に話をしながらアイスを食べます。その時に、今後の部活の事や、体育祭、進路について話します。自分はとても大好きな時間です。

祖父は小林書店という本屋をしています。僕はたまに祖父の手伝いをしたり、数年前に亡くなったひいばあちゃんの仏壇をおがんだり、本を読んだりなどしています。

祖父はよく笑います。そんな祖父は最近、補聴器を付けているのですが、

「永真の声大きいから補聴器いらんわ。」

と笑っている姿を見ると元気だなと思います。これからも祖父と一緒に笑ったり剣道をしたりして、過ごしたいなと思っています。